

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第29号



東京では最も早いお花見とかで、温暖化が進んでいるんだなあと感じさせられますが、盛岡の開花予想は大きくは変化がないようです。今年は4月20日ですが、昨年ニュースレターを見たら4月23日でした。昨年より3日早い予想となっています。開花の一週間後が満開とすると、ゴールデンウィークでは、お花見には遅いかもしれませんね。

いずれにせよ、お花見の話題が書けるのは平和で良いことです。

ペイシャント・アドボケイト・プログラム ドラッグ・ラグ サバイバーシップ ピアサポート

適切な訳語がないのか、最近の風潮で訳を作ろうとしないのかわかりませんが、全国学会では、学会会場の中でプログラムの一環として、ペイシャント・アドボケイト・プログラムが行われることが増えています。

日本語訳を作らないこと自体が、アドボカシーに問題があるのではないかと思うのですが、この言葉を聞いても、どういものかわからないの方が圧倒的に多いでしょう。医療者にも、意図が伝わっていないと思います。3-4年前から目にするようになった言葉ですが、当初から違和感がありました。ペイシャントは患者さん、アドボケイトは擁護するですから、簡単に言えば「患者さんのためのプログラム」ということです。

患者さんに学会を活用していただきたい、何か有用な情報を持ち帰っていただきたいという意図のもので。日本には、これまでは無かったもので、海外から輸入された概念であろうと思いますが、適切な日本語がない辺りに、やや取って付けた感がありますね。今年は8月29日～31日まで仙台で日本臨床腫瘍学会が開催されますが、仙台でも患者さんのためのプログラムが開催されるようです。名前は取り付きにくいですが、有意義な情報も得られるものと思います。

日本のがん診療は、がん対策基本法が根幹にあって、その中で最も高い位置づけにあるのは、「がん対策推進協議会」というものです。この委員をされているのは、学者、医療者、ジャーナリスト、患者団体の方など多方面にわたりますが、一般の方の意見を集約できるよう、巷の声を汲み上げるようにという趣旨と思われれます。患者さんの声が重要なポイントになっており、政策に反映される大きな機会となっています。今まで、ドラッグ・ラグやサバイバーシップなど（これもカタカナです）、様々な議論が行われていますが、厚生労働省のホームページを見ると、直近の話題は、がん対策の評価指標と、ピアサポートのようです。

ピアサポートというのは、これまたカタカナですが、たまに映画の場面なんかで出てきますね。アルコール依存とかの治療のために、同じような課題を持つ方が定期的に集まって、体験を語ったりしながら相談したり支えあったりするものです。がんの場合にも、同じようにピアサポートが役立つのではないかとということが議論されています。

日本の不思議なところは、

巷の声 → 海外で行われている概念に翻訳 → 政策

というところで、途中でワンステップ入ると、大抵カタカナになってしまっ、巷の声？という感じになってしまいます。市民の声を反映できるのは良いのですが、カタカナにすることは疑問です。タイトルに上げた言葉は全てカタカナでがん診療に関する言葉なのですが、実感が湧かないように思います。明治時代だったら洋風のを、洋風というだけで有難がったものですが、今は、実感のある言葉で語りかけ、共感を得るような能力が政治に求められていますね。



ダンテ神曲

誰にでも知られていて、誰もが読んでいない本は何？というクイズの答えは、ダンテの神曲らしいですね。私も、つい、最近まで存在は知っていましたが、実際に読もうとは思いませんでした。読んでみて、非常に奥深い本だということがわかりました。これは14世紀の本で、正確にいうと1300年頃のイタリアで書かれたものです。日本だと鎌倉時代ですね。元寇の襲来があった後、鎌倉幕府が衰退していったころです。日本もイタリアも中世で、イタリアは統一国家になっていなくて、都市国家間で戦争が絶えなかった時代です。

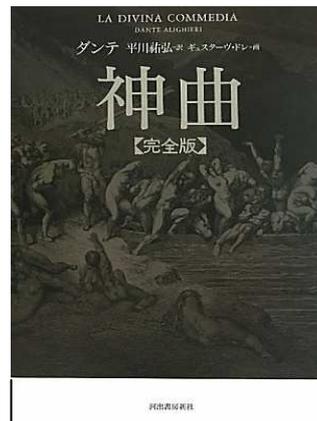
ダンテは陰謀渦巻くフィレンツェで、一時、統治を行う立場にあったのですが、政争のためフィレンツェを追放になり、以後亡くなるまで故郷に帰ることは許されませんでした。生前に神曲の詩人として既に有名でしたが、他の都市国家で居候として過ごし、「他人のパンは辛い」と言っています。フィレンツェを良くしようと強い思いを持っていましたが、その熱情を神曲の中に結晶させた感があります。

この神曲は、ご存知の通り、地獄篇、煉獄篇、天国篇に分かれており、散文ではなくて詩の形で書かれています。綺麗な韻を踏んだ詩で、膨大な長さがあります。地獄篇34曲、煉獄篇33曲、天国篇33曲の合計100曲からなる詩で、地獄篇の冒頭の第一曲は、全体のプロローグなので、 $1+33+33+33=100$ 曲という美しい構成です。一行が11音節、3行セットになっています。マジックナンバーの3が一杯ですね。

神曲を読んで思うのは、理想主義というもののはかなさです。理想主義は現代を覆いつくしていますが、理想とは何か見直すと、決して到達できない影のような存在に思えてきます。中世というと、前近代的で暗黒の中世というイメージですが、心の救済ということを真剣に考えて、求めていた時代なのだなあと実感できました。何か、薄っぺらな理想主義と較べて、地に足がついている気がします。

ダンテの神曲には、ギュスターヴ・ドレの挿絵の入った本が複数出ていますが、この挿絵が、また、良く描けているのです。挿絵があると、情景が本当に理解が進む本でもあります。

複数の訳がありますが、平川訳はかなり読みやすい感じがしました。最初の3曲で、世界が変わりますので、一度読まれてみては。



エイプリル・フール

4月1日はエイプリル・フールと言いますね。他愛のない嘘を言ってもよい日ですが、他愛のない嘘というものも、考えてみると難しいものだなあと思います。かつて、エイプリル・フールの日に、「帰り道で、プーさんを乗せたオープンカーのパレードを見たよ」と、家内に言ってみたのですが、「本当、まだいるかな。」といって出て行こうとしました。「だってエイプリル・フールでしょ」と言うと真剣に怒られました。プーさんを使った嘘をつくのは良くないようです。

そうでなければ、今日は4月1日だけど、と断ってから、面白いことを言ってみるとかでしょうか。あまり、エイプリル・フールの意味がないような気もしてきますね。



MEMO

4月のがん化学療法科の予定

4月12日	柴田教授外来
4月19日	新渡戸稲造記念メディカル・カフェ
4月26日	柴田教授外来
4月29日	みどりの日



今年の盛岡の開花予想 4月20日ごろ